

自然遊学館だより



JAPAN MUSEUM

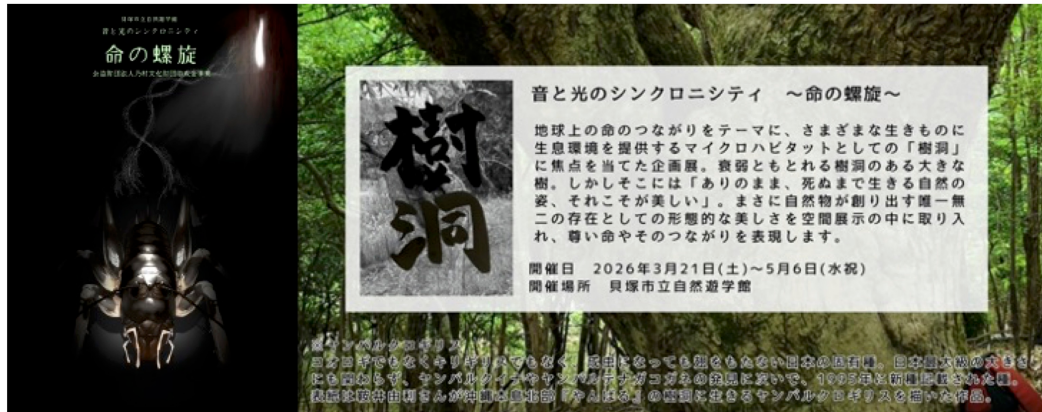
登録博物館

Vol.117 2026.3



キジハタ

自然遊学館の水槽で展示されている魚の一つがキジハタです。赤茶色の体に黒い斑点があり、雉（きじ）の羽の模様に似ていることから名づけられました。関西では「アコウ」ともよばれる高級魚です。この水槽にいるキジハタは、今年11月14日(土)・15日(日)に実施される「全国豊かな海づくり大会」に関連し、2024年6月に大阪湾に稚魚放流された時の個体です。キジハタは成長すると30センチ以上にもなり、寿命も長く、同じ岩場に何年も住み続ける習性があります。岩陰に身をひそめ、エビや小魚を待ち伏せして捕えるのが得意で、口を一気に広げて吸い込むように捕食します。水槽の中でも、ほとんど動かず周囲を観察する様子が見られます。さらにキジハタは、すべてメスとして生まれ、大きくなるとオスに性別が変わるという生態もっています。水槽の前でじっくり観察すると、野生での暮らしぶりが想像できるでしょう。



音と光のシンクロシティ ～命の螺旋～

地球上の命のつながりをテーマに、さまざまな生きものに生息環境を提供するマイクロハビタットとしての「樹洞」に焦点を当てた企画展。衰弱ともとれる樹洞のある大きな樹。しかしそこには「ありのまま、死ぬまで生きる自然の姿、それこそが美しい」。まさに自然物が創り出す唯一無二の存在としての形態的な美しさを空間展示の中に取り入れ、尊い命やそのつながりを表現します。

開催日 2026年3月21日(土)～5月6日(水祝)
開催場所 貝塚市立自然遊学館

3月4月5月の行事 などの開催案内

3月17日(火)～4月12日(日) 天王寺動物園にて生物多様性展での展示会

※詳細は天王寺動物園HP 自然遊学館も展示させていただきます。

3月21日(土)～5月6日(水祝) 企画特別展「音と光のシンクロシティ 命の螺旋 樹洞」

乃村文化財団助成金事業 樹洞に暮らすさまざまな生きものから命のつながりをテーマにした企画展

3月22日(日) 自然遊学館調査報告会 自然遊学館2階 受付 3/1～3/16

3月29日(日) 水生昆虫を調べよう 蕎原 受付 3/1～3/21

4月4日(土) 天王寺動物園にてコラボイベント「昆虫観察会」&「昆虫イラスト教室」の開催

4月29日(水祝) 大阪府レッドリスト昆虫調査 ～和泉葛城山の原始的な蛾類の観察～ 受付 4/1～4/22

5月16日(土) 渚の生きもの※大阪湾生きもの一斉調査も兼ねる 近木川河口 受付 5/1～5/13

5月16日(土)・17日(日) サクラを守れ! クビアカツヤカミキリ「夏の陣」での協力 詳細は天王寺動物園HP

5月23日(土) 大阪府レッドリスト昆虫調査 ～ムカシヤンマやムカシトンボの観察～ 受付 5/1～5/16

※日時・内容などは変更することがあります。「広報かいづか」や当館ホームページでご確認ください。

※行事申込については、貝塚市広報に掲載後、詳細を確認の上、メールもしくは当館窓口にて、住所（市町村名まで、番地以下は不要）・連絡先・参加される方全員のお名前・年齢をご記入いただき、shizen.desk@icloud.com（このページの下メールアドレスのQRコードがあります）までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。

自然遊学館は改正博物館法の下で登録博物館として旧博物館法から再度登録され、文化庁より館内掲示用クリスタル製「登録博物館プレート」を贈呈されました。



行事申込メール



Instagram



YouTube



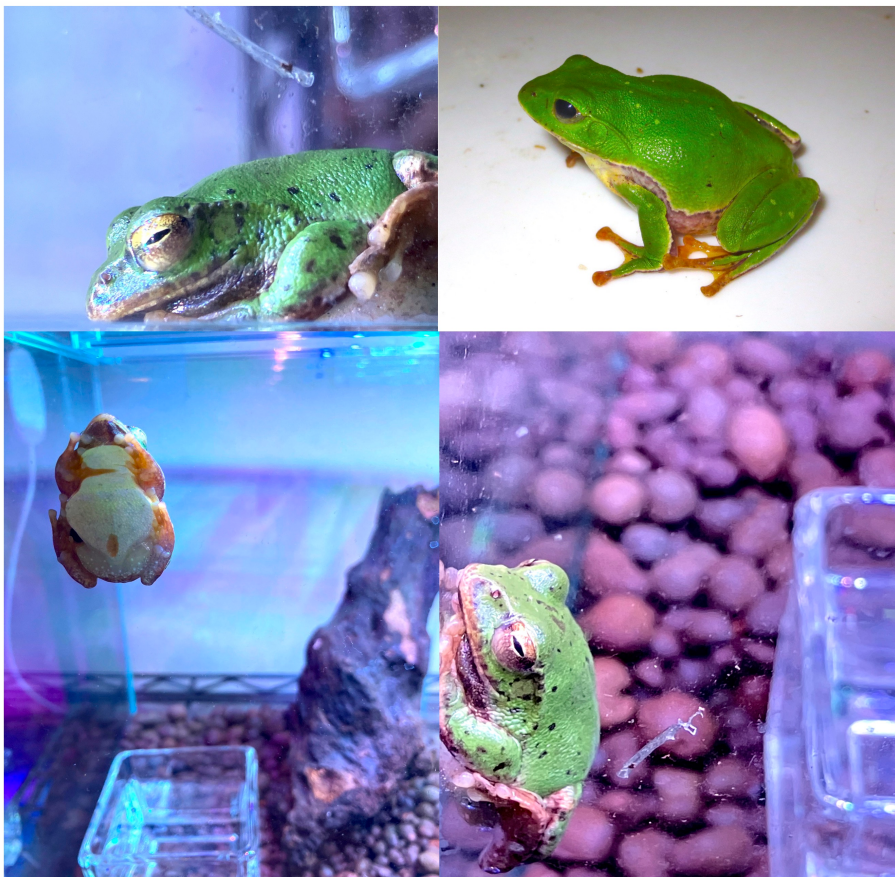
ホームページ



貝塚市立自然遊学館
Kaizuka City Museum of Natural History

〒597-0091 大阪府貝塚市二色3丁目26-1

TEL 072-431-8457 FAX 072-341-8458



シュレーゲルアオガエル

自然遊学館の生体展示にとても可愛らしくて、虹彩（目の周り）が黄色のシュレーゲルアオカエルがいます。このカエルは、日本の田んぼや雑木林にすみ、黄緑色の体がとても美しいカエルです。名前から外国のカエルなのかと思われることも少なくないのですが、これは研究者のヘルマン・シュレーゲルに由来する日本固有種です。春になると、オスは「コロコロ…」という鈴のようなやさしい声で鳴き、夜の田んぼで不思議な音楽会をひらきます。この鳴き声は遠くまで響き、メスに自分の存在をアピールする大切なサインです。このカエルの最大の特徴は、泡でできた巣を地面に作ることです。オスとメスは協力して、泡だらけの卵塊を土の中に産みつけます。やがて雨で泡がくずれると、オタマジャクシが水たまりへ流れ出るという、計算された仕組みです。木登りが得意で、吸盤のような指先を使って葉の上を自由に移動します。農業や環境の変化に弱いため、シュレーゲルアオガエルがいる場所は、自然が豊かな証拠ともいわれています。身近な田んぼに、実はこんなドラマが隠れているのです。

39年飼育されているクサガメ

貝塚市窪田の中西さんのお宅で39年間飼育されているクサガメがいます。これほど長期間飼育されている事例は珍しいので、レポートを書いてもらいました。

「1987年、窪田周辺で友人が捕まえたクサガメを当時小学3年生だった弟が譲り受けてきました。弟や私自身はあまり世話をせず、飼育の中心は両親でした。父は仕事場から持ち帰ったトロ舟を庭に設置して、水や石を配置して生息環境を整え、逃げ出さないよう工夫しました。餌やりや掃除、日光浴など地道な世話を続け、甲羅は縦25センチ、横17センチほどに成長し、今年で39年を迎えます。これまで何度か無精卵を産んでいるのでメスと考えられます。（中西 義昌）」



大阪・関西万博

昨年のお阪・関西万博では、日本紙工株式会社様のワークショップに自然遊学館も協力させていただくことになりました。ワークショップで制作するのは、てんとう虫でこの立体感をどのようににして、段ボールで作り上げるのがすごく興味深いものでした。一方、私たち自然遊学館は、てんとう虫についてのさまざまなレベルでのクイズを提供し、神技ともいえるものづくりの素晴らしさを通じて昆虫や生物多様性を知っていただくよい機会となりました。さらに自然遊学館はEXPO2025共創パートナーとして、テーマごとのチャレンジ型プログラムを貝塚市内のフィールドで展開し、来場者の方々にも自然や環境について考えてもらえるきっかけづくりを行いました。

展示全体を通じて、企業・団体それぞれの強みや活動内容を紹介するとともに、環境や生きものに関する情報を分かりやすく発信する場となり、今後の企業連携や継続的な取り組みにもつながる機会となりました。

